

## 第4回水稲病害虫発生予察結果(伊豆市内)



4月下旬～5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ等)

### 【稲の生育状況と栽培管理について】

コシヒカリ等の早生品種では調査地区により、幼穂の長さの違いが出ております。中伊豆地区は平均で1.1cm(出穂まで約19日)、天城・修善寺地区では0.5cm～0.9cm(出穂まで約19～20日)と予測されますが、今後の天候、気温によっては早まることや遅くなることがありますのでご注意ください。穂肥を施用される方は自分の田んぼの幼穂の長さが0.5～1.5cmを目安に施用してください。

なお、幼穂の成長には水が必要となります、水が不足すると幼穂の生育に遅れや稔実が悪くなる可能性が高まります。中干しの最中で幼穂の形成が確認できた方は、中干しを中断し間断灌水を行うようにしてください。詳しい「穂肥のタイミング」「幼穂の確認方法」「間断灌水の方法」については、「第3回水稲病害虫発生予察結果」をご参照ください。

### 【早生品種：病害虫の発生状況】

今回の調査では田んぼの中にカメムシが多くみられました。出穂が始まると穂の吸汁をはじめ斑点米の原因となりますので、薬剤防除の準備をお願いいたします。

カメムシ防除の薬剤は「スタークル粉剤」「スタークル粒剤」「スタークル豆つぶ剤」「トレボン粉剤」などをご利用ください。

使用タイミングについては次回の「第4回水稲病害虫発生予察結果」に記載させていただきます。

5月中旬～6月上旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおりSBL)

### 【稲の生育状況と栽培管理について】

現在の分けつ数は20本を上回っています。分けつ本数が20本を確保できていれば中干しの適期となります。中干しの期間は田んぼに軽くヒビが入る程度まで行ってください。

中干しの期間については「第1回水稲病害虫発生予察結果」をご参照ください。田んぼに雑草が多い方につきましては生育遅れの原因やカメムシを誘引する原因となりますので、中干しの際に使う除草剤「**バサグラン粒剤**」などを使用し防除を行ってください。使用の際は、田んぼを**落水状態(足跡に水が少し残る程度)**にして散布を行ってください。また、散布後2～3日に田んぼに水を入れたり雨が降ってしまうと効果が低下しますので、**散布後3日間は雨の降らない日を狙って**散布してください。

薬剤名	使用時期	使用方法	使用量	使用回数
バサグラン粒剤 3kg	移植後15日～収穫45日前まで	落水散布またはごく浅く湛水して散布	3～4kg/10a	1回

### 【中晩生品種：病害虫の発生状況】

今回の調査では病害虫につきましては確認されませんでした。

前回の予察結果・栽培管理は  
こちらからご覧になれます！  
次回予察予定 **7月8日**  
(雨天中止)



作成日：令和7年7月1日  
JAふじ伊豆修善寺営農経済センター  
担当：竹村  
電話：0558-72-4461